

## 電子シラバスシステムを用いた学修成果の可視化 ーコンピテンス・コンピテンシーと学士力の到達度の数値化ー

福岡歯科大学

内田竜司・赤間尚希

### 1 本学は 2014 年度に「大学教育再生プログラムテーマII：学修成果の可視化」の採択を契機に新たな教育改善への取り組みを開始した。

本学の取り組みの概要は以下の通り。

#### ① 卒業時アウトカムの策定・3つのポリシーの見直し

これまでのプロセス基盤型教育（教育者が何を教えたか）からアウトカム基盤型教育（学習者が何を学び取ったかを評価する）への転換を行うため、学生に獲得させるべき能力を卒業時アウトカム（コンピテンス・コンピテンシー）として策定し、この卒業時アウトカムを身に付けた人材育成を行う教育への転換を行った。併せてディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3つのポリシーの見直しを行い、新たに策定した卒業時アウトカム（コンピテンス・コンピテンシー）を本学のディプロマポリシーとして位置づけた。

#### ② 新シラバスの作成

新規入力項目を追加した新シラバスのレイアウトを考案するとともに、従来の科目評価と異なる、学生が獲得した能力を数値化して可視化する方略を考案した。

##### ディプロマポリシー（DP）及び学士力の到達度の可視化

各開講科目の行動目標ごとにコンピテンス・コンピテンシー、行動目標の属性（知識・技能・態度）の3領域と、達成の難易度3段階、評価方法を設定した。この設定に基づき、科目の単位数と評価点を用いて数値化し、コンピテンス・コンピテンシーおよび学士力ごとに集約することで学生ごとに獲得した能力を数値化して可視化した。

#### ③ 教育活動の検証とカリキュラムの改定

これまでのカリキュラムでは、能力が獲得できる機会に濃淡があることが明らかになったため、科目配置の見直しや新規必要科目の検討等のカリキュラムの改定を行った。

これらの取り組みは新規構築した電子シラバス上で運用した。この電子シラバスを効果的に運用していくため、教育支援・教学IR室が企画・運営する「学修成果の可視化」に関するFD・SDワークショップを実施し、活用の推進を図った。FD・SDワークショップの複数回実施により、Web Base 電子シラバスシステムの周知とともに新規運用をスムーズに開始することができた。今後は機能の追加や改変、他のツール間との連携や閲覧アクセス数の記録とその活用を行うことで、教育改善への取り組みを進めていきたい。